

モラルジレンマを活用した 著作権教育の実践

A Practice of Copyright Education in Moral Dilemma

- ▶ 第7回全国高等学校情報教育研究大会（埼玉大会） 2014年8月13日（水）
 - ▶ 東京都立江北高等学校 稲垣 俊介



はじめに 1

中央教育審議会では「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」の中で「思考・判断・表現」について、**多くの教師が学習評価を円滑に実施できているとは感じていない**としている。

また、ペーパーテストを中心として、いわゆる平常点を加味した、**成績をつけるためにとどまっている学校**もあるという指摘がある（2010 中教審）

こういった現状のなか、情報教育における情報モラルとは、**情報社会で適切な活動を行うためのもとになる考え方と態度**としている。

さらに情報モラルについては、そのことを単に理解することとどまることがなく、**それらが態度や行動に表れることが求められる**と述べられている（2010 文科省）

つまり、実社会で発生している諸問題について、**生徒が主体的な思考を広げ深める学習活動が必要**であるとしているのである。

はじめに 2

著作権教育は小学校からはじまり，中学，高校，大学等，さらに企業等でも実施されている。

しかし，メディア等で報道されているように，**モラルの意識の低さから起こる生徒や社会人による問題行動は後を絶たない。**

情報社会は急速な変化をしている。

著作権の考え方も変化を続け，追うように法改正もされる。

知識を身につけさせるだけではその変化にはついていけない。

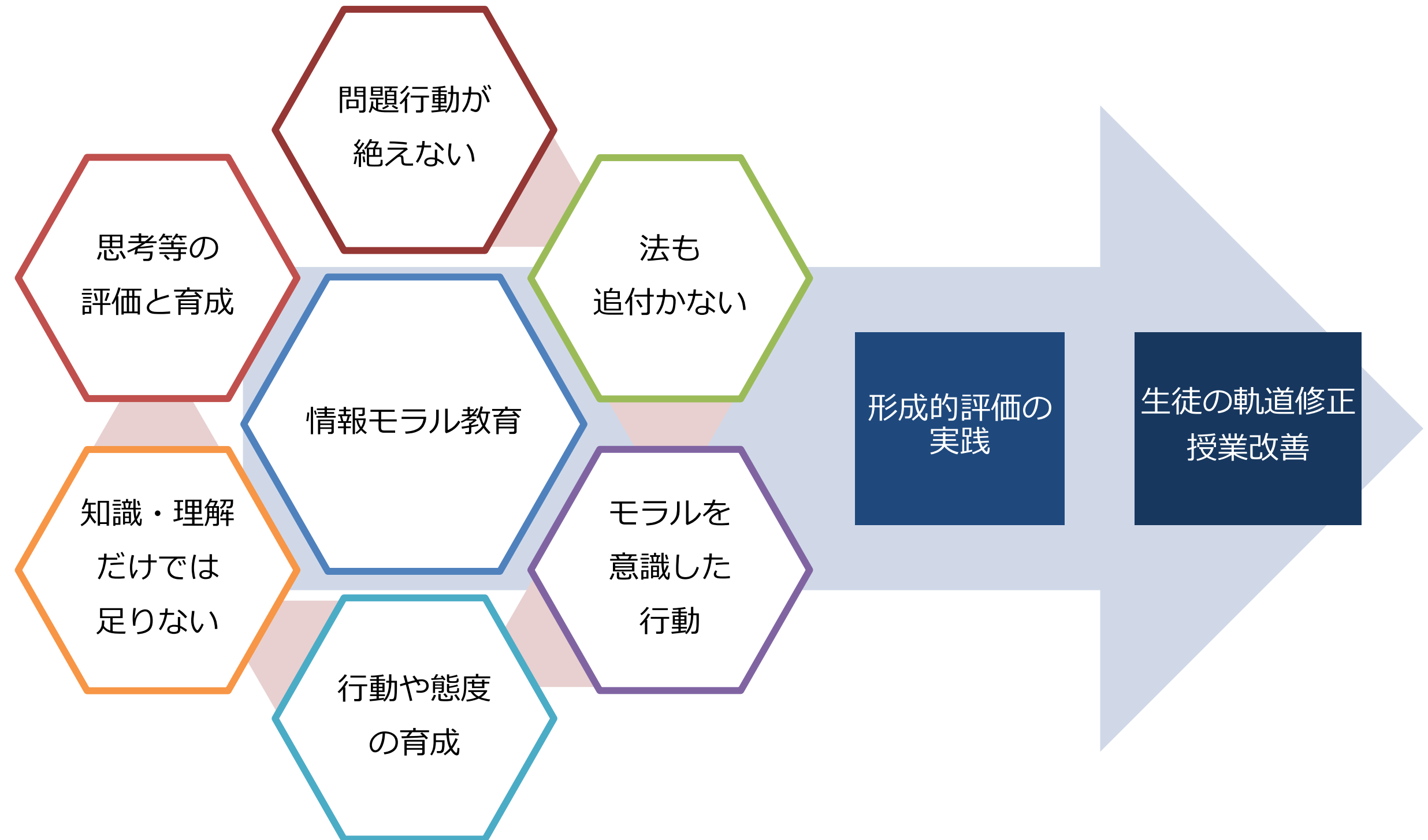
基礎的な知識の上に，一人一人のモラルの向上を目指した著作権教育を実施することで，こういった局面であってもモラルを意識した行動ができると考えている。

情報モラル教育には観点別評価での「知識・理解」評価だけではなく，「**思考・判断・表現**」による評価が必要なのである。

観点別評価を行うことで，生徒自身が自分の評価（思考・判断・表現）を確認することができる。

生徒一人一人の軌道の修正をしたり，または授業全体の指導方法を改善したりすることが情報モラル教育に求められているものとする。

はじめに 3



研究目的 1

生徒に思考の過程を丁寧に記録させる。

そのことで、自身でその確認ができ、思考力や判断力等を定着させることができる。

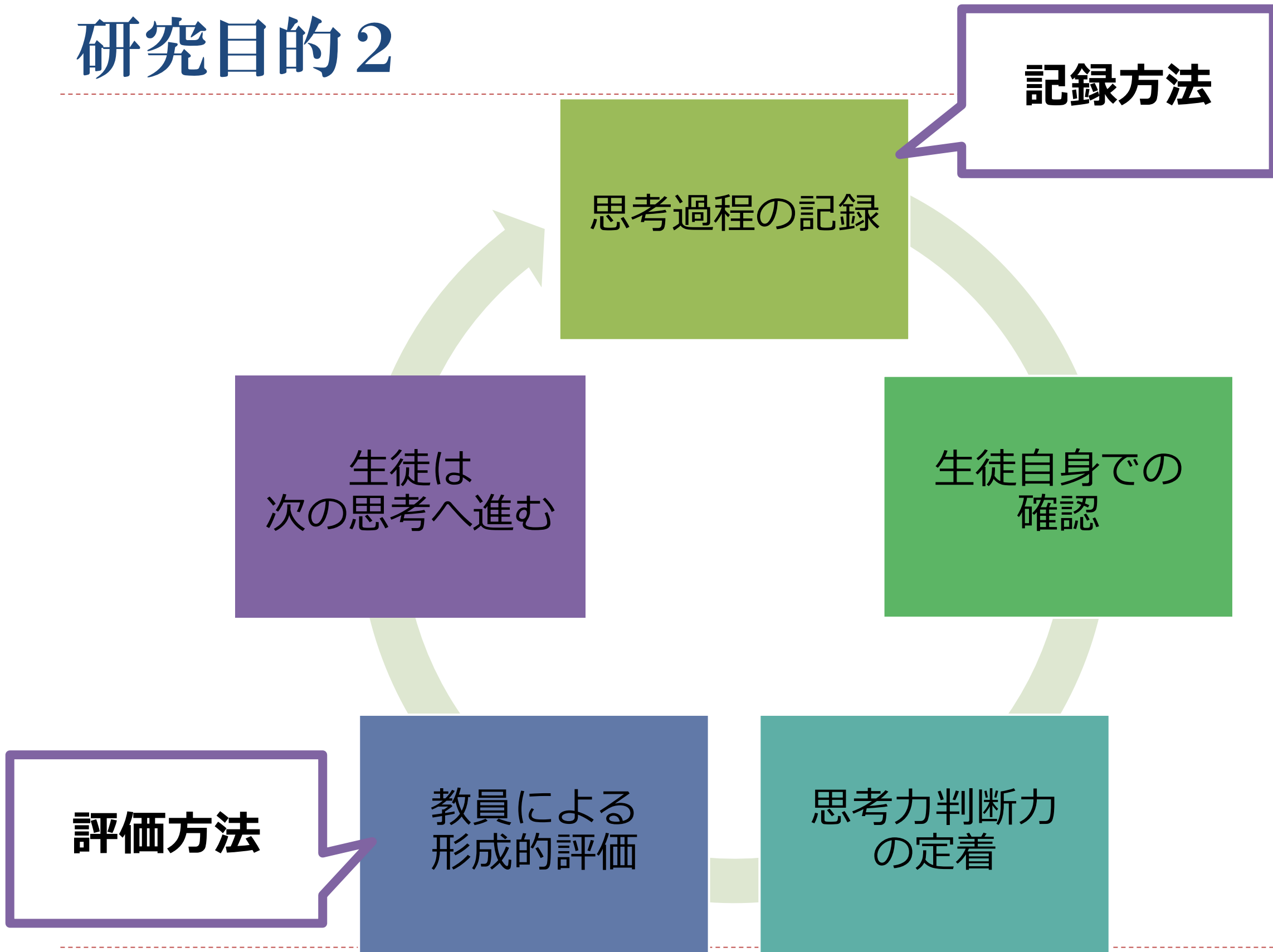
その過程を教員が形成的評価をする

生徒が次なる思考へ進むための支援ができる。

そのための適切な生徒の思考過程の記録と形成的評価の方法を検討することがこの研究の目的である。



研究目的 2



単元と本時の目標

この授業の単元名は「情報社会の課題と情報モラル」である。
単元の目標

- ① 知的財産権がなぜ必要なのかを事例から学び取るとともに、知的財産権の種類と内容を理解し、様々な価値観があることを確認する作業をさせることで、それを保護・尊重する態度を養う。
- ② 情報の信憑性とモラルのジレンマを見据えて、自身の考えをもち、適切に情報を取り扱うことのできる知識、技能と態度を養う。
- ③ コンピュータ犯罪の実態を知り、どのような犯罪があるかを知るとともに、自身が巻き込まれないようにすることができるようにする。
- ④ セキュリティを高め、信頼性を保障する工夫について理解し、実践する態度を養う。

本時の目標

- ①著作権をはじめ、知的財産権に興味・関心を持つ。
- ②著作権について自ら考え、知的財産権を守る態度を養う。

時間	学習活動
1	・ 知的財産権の種類と内容を理解する。
2	・ 著作権を中心とした知的財産権に関して、自身が現時点ではどういった理解の確認
3	・ 知的財産権に関する映像資料を観て知識を確認
4～7	・ 著作権のあり方についてレポート、プレゼンテーション、ポスターを班ごとに作成する。
8 (本時)	・ 現状の著作権の問題や今後の課題を含め、今後の著作権の在り方を検討する。
9	・ 4～7時で作成した作品を完成させる。
11～12	・ 4～9時の作成物の発表をし、相互評価をする。
13	・ 情報の信憑性について考える。 ・ 情報モラルと情報の信憑性の関連について考える
14	・ 前時をふまえ、情報の信憑性を調べる方法を理解する。 ・ 情報を発信する際の注意点を理解する。
15	・ 自分の個人情報自分で守る方法を考える。 ・ 個人認証の方法や手段を調べる。

本時の授業展開（導入）

過程	時間	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	- 本時の内容を把握する. - 本時のキーワードを提示する. - 著作権の目的について1分間検討する. - 著作権の目的について自身の意見を発表する.	- スライドで授業のタイトルを確認する. 本時のキーワードは「著作権」と伝える. - 本時に実施する本日の授業の受け方について説明する.	

【発問】 今後の「著作権」の在り方について今，皆さんはレポートを作成していると思います．皆さんの班では著作権の目的とは何であると考えていますか？

本時の授業展開（展開） 1

過程	時間	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
展開	20分	- 著作権の目的を理解する - 著作権法第一条をノートに記録する.	著作権法第一条と目的を提示し, 著作権は文化の発展が目的であることを伝える. - 著作権違反の事例に関する新聞記事を読ませた教材を配布する.	
		【発問】 配布したプリントの新聞記事を読んで, 具体的な著作権法違反に関する自身の意見を伝える1分のプレゼンテーションを作ってください. プレゼンテーション作成時間は10分間です. - 著作権に関するプリントを読み, 関心を高める - 著作権への意見をまとめる. - 自身の意見をプレゼンテーションにまとめる. - プレゼンテーションを作成し, 発表する.		
		- 提出方法の指示をする. - 新聞記事を読んで内容で大切だと考える箇所にラインを引くとともに意見を書くように指示をする. - 自分考えをプリントにまとめ, 10分でプレゼンテーションを作る. - 作成方法は以前作成したプレゼンテーションを簡略化して作ることをヒントとして伝える.	新聞記事に対して自分の考えなどをプリントにまとめている作業が見られる・観察 (ア)	

本時の授業展開（展開） 3

過程	時間	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
【発問】 他の生徒のプレゼンテーションを聞いて、その内容とその内容に対するあなたの考えについて、青ペンを使用して記入してください。同意であっても反駁であっても良いので自身の考えを書いてください。				
展開	20分	他の生徒の考えを踏まえ、「学習活動の記録シート」に自分の考えを絞り込んで表現する。	ランダム（実は異なる意見の生徒）に指名した生徒に発表させる。 - 他人の考えを聞き、自身の考えと違う点や同意できる点をできるだけ数多く記入させる。 - 考え方を広げたり増やしたりするために量を多く書くことが大切であることを指示する。 生徒によっていろいろな考え方があることに気付かせる。 - 行き詰っている生徒に他の意見を自分の意見に取り入れ思考を深めるきっかけを与える。	他人の意見を聞き、自身の考えを振り返りながら、考え直したことを記入している・提出物（ウ）

本時の授業展開（まとめ1）

経過	間時	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
まとめ 1	15分	【発問】今から著作権の目的や在り方について説明をします。その説明の内容やその説明を踏まえた、あなたの考えを青，黒，赤以外のペンで記しなさい。		
		- 著作権の問題・課題点について考える。 - 著作権についての解説を聞く。	- 著作権法によって著作権は守られているので、違反してはいけない。しかし、法律違反してはいけなから守るのではなく、なぜ守らなければならないか、注目をしなければならないかを解説する。 - 法律を守るという考えだけではなく、文化を守る一人として著作権を守る意識をもち、態度を身に付ける重要性を解説する。	

本時の授業展開（まとめ2）

経過	間時	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
まとめ 2	10分	【発問】授業開始時のあなたの意見と、他の生徒の意見，そして教員の説明を聞いた後で，あなたの意見を再構成してまとめなさい。 - 教員の説明を踏まえ，「学習活動の記録シート」に自分の考えを絞り込んで表現する。 - 教員の説明を取り入れてまとめさせ，さらに教員の説明を自分の考えに取り入れ，意見を作らせる。 - 意見をつくる際にはただ教員の言うことが全てである，と考えるのではなく，今までの自分の考えと比較をしてさらに思考を深めることを指示する。	教員の説明を聞いて自分の考えをまとめている・提出物（ウ）	

学習の記録シート



著作権⑦ ～これからの著作権の在り方～

学習の記録

組 番 氏名

1. 著作権⑥の新聞記事を読んで、あなたはどのような意見を持ちましたか？著作権に対する考え方を含めてあなたの考えを書いてください（プレゼンをしてもらいます）。
2. 他の人の意見を聴いて自分が考えたことや発言したこと、さらに他の人の意見で印象に残ったことや大事だと思うところを青ペンで記入してください。
3. 授業者の解説を聴いてさらに考えが深まったところや、印象的であったところを、赤・青・黒以外のペンで記入してください。

【黒色の記述】 広く共有してきた文化的な財産を最初にアニメ化したのはA国B社であると思われるが、だからと言って文化的な財産の力を借りたことが源となって、C国D遊園地が閉園しなくてはならなくなったというのは少しおかしいと思う。（記事に賛成）

【青色の記述】

- ・ E国F遊園地は違反（模倣）
 - ・ A国B社の著作権の範囲は広い
 - ・ あくまでも文化の発展が目的（第1条）
 - ・ 著作権は思想の話
- そもそも無理がある

【青色の記述】

広く共有してきた分的な財産に最初に注目したのはA国B社だが、A国B社は文化的な財産をアニメ化しただけなので、それが源で他の遊園地の風景が変わってしまうのは少しおかしい。

【他の色の記述】 考察1

インターネット→法的には灰色→全てを禁止はしていない

【他の色の記述】 考察2

創業者は様々な

創作者→尊敬する先人→素人

影響を受けている。

【他の色の記述】 考察3

↓権利の保護（←法律が線を引いている。→）公正な利用↑

【他の色の記述】

文化を発展させる。

4. 1～3を踏まえて著作権に対する自身の意見をまとめてください。

著作権というものがそもそも曖昧であると思う。

【教員コメント】そもそも曖昧であるのは、良いこと？悪いこと？どうして曖昧にしてあると思う？

曖昧であるのだから、著作権はあくまでも文化を発展させるというのが目的であるということを、

【教員コメント】著作権と文化の発展の関係を説明できるかな？

一人一人がきちんと認識し、そのうえで正確に物事を判断していかなければならないと思った。

【教員コメント】一人一人が正確に判断できるようになるにはどうすればいいの？

法的に良い、悪いということよりも文化の発展を最優先にするべきだと考える。

【教員コメント】その精神によって法律はできているんだね。

評価方法 1

▶ 「学習活動の記録シート」における形成的フィードバックのための評価規準

A：著作権法の目的を考え、今後著作権に対して各自がどうすべきかを検討できている。さらに、他者の意見を聞き、過去の自分の意見と比較しながら、自分の考えを深めることができる。

B：著作権法の目的を考え、今後著作権に対して各自がどうすべきかを検討できている。

▶ 評価結果に対する生徒支援の新たな課題

A：著作権侵害を防止するためには各自のモラルが大切であることを踏まえた上で、さらにそのモラルを各人でもつことができる仕組みにするにはどうすれば良いのかを考えるとともに、そのジレンマを踏まえてどうすれば良いか、自分の考えを再構成させる。

B：著作権の目的を再確認するとともに、今後の著作権の在り方は各人の情報モラルが大切であることを確認する。または、自分とは異なる意見を聞き入れ自身の考えを発展させる。

Bに達していない状況の生徒：

Bに達するような課題を提示する。

未記入又はほぼ未記入の生徒：

自分の意見と他者の意見を記入することを促す。

評価方法 2

形成的評価の実践

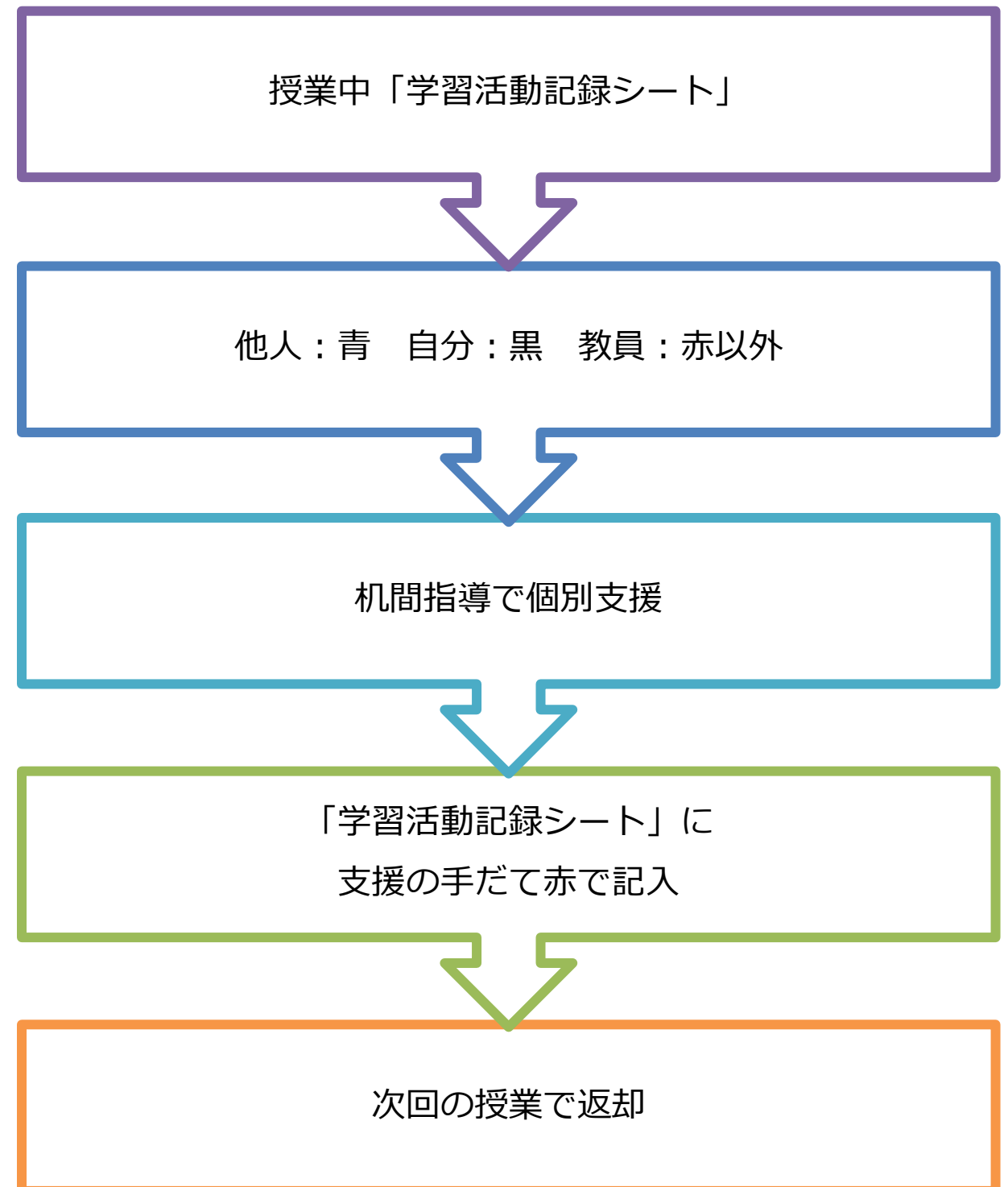
生徒が授業中に考えたことや判断したことを評価するために、「学習活動の記録シート」に記録させた。

他の人の考えを青ペン、自分の考えを黒ペン、教員の説明を青、黒、赤以外のペンで記録させた。

青ペン、黒ペンで記録中に机間指導を行い、Bに達していない生徒をBへ、Bの生徒をAへと伸長するため、他の人の意見を取り入れることについて自分の考えを他者に伝わりやすく表現できない生徒には、まず箇条書きで記すように指示し、他人の考えを取り込んで表現できない生徒には、特に記憶に残ったキーワードのみを記録するように指示した。

授業中に支援の足りなかった生徒にも、「学習活動の記録シート」に支援の手だてを記述し、次の授業の最初に生徒に示すことで、形成的評価を補完した。

て補足説明を個別に行うなど、具体的な支援を行った。



授業前アンケート 1

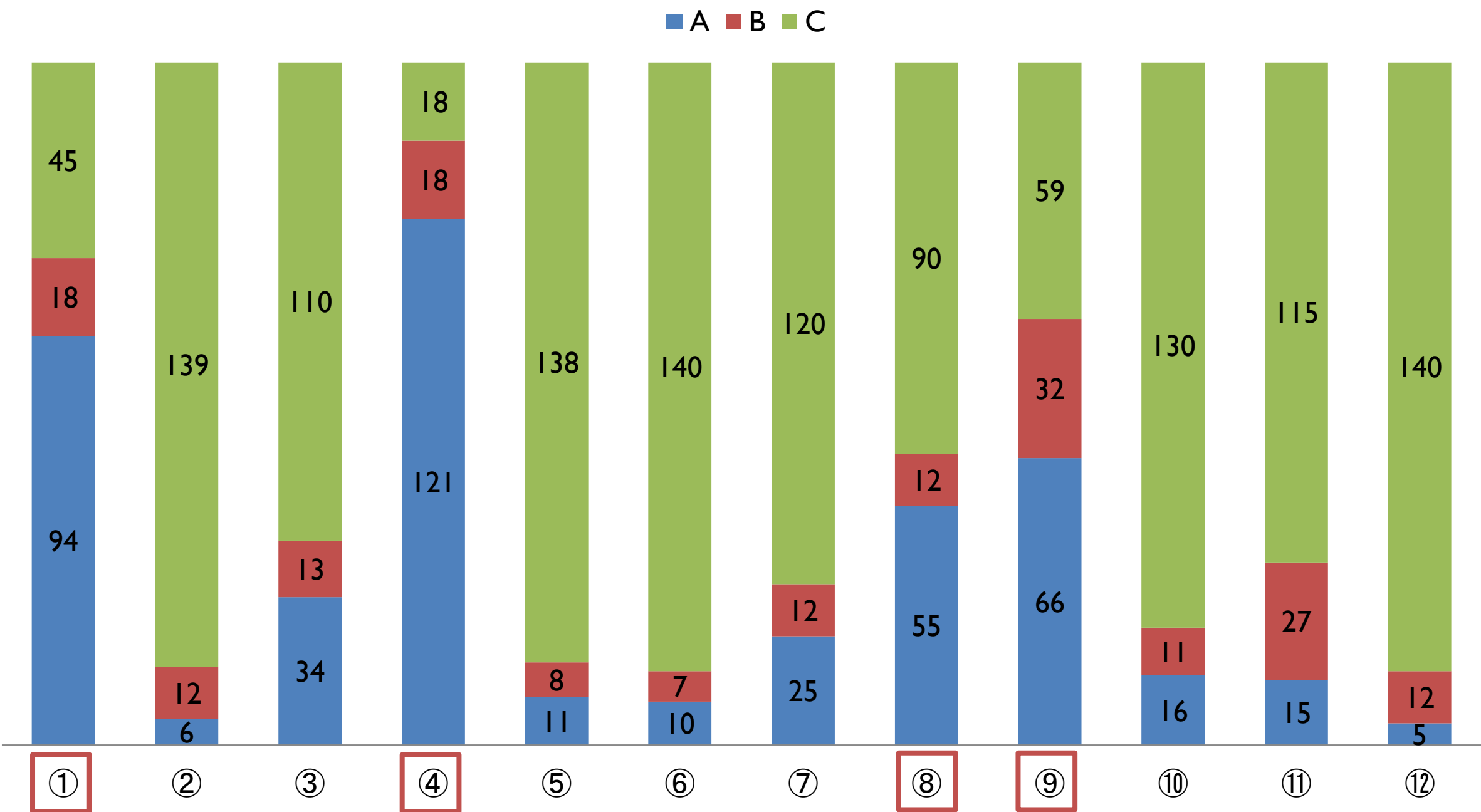
以下の各項目について、「A したことがある」「B (しようと思えばできたが)したことがない」「C そのような行為を経験したことがない」で答えてください。⑬は「はい」「いいえ」、⑭は選択肢の中から選んでください。

- ① ☐ 友達に借りた CD や DVD を、自分用にコピーしたことがある(コピーしたものをもらったことがある)
- ② ☐ コンサートで、無断で録音や録画をしたことがある
- ③ ☐ Web ページに掲載された写真やイラストを、自分の Web ページでも利用したことがある
- ④ ☐ 問題集やテキストをなくしたので、コピーして使ったことがある
- ⑤ ☐ 海賊版と分かっている CD や DVD を購入したことがある
- ⑥ ☐ 偽ブランド品と分かっている財布やバック等を購入したことがある
- ⑦ ☐ コピーガードがかかっている CD や DVD をコピーしたことがある
- ⑧ ☐ ファイル交換ソフトを使って、CD や DVD の音楽や動画を配信した(ダウンロードしたことがある)
- ⑨ ☐ 感想文や作文を書くとき、Web ページに書かれている文章や友達の文章を利用したことがある
- ⑩ ☐ キャラクターのイラストを自分で描いて、Web ページに掲載したことがある
- ⑪ ☐ Web ページ等に、誰が写っているか特定できる写真を、本人の了解なしに掲載したことがある
- ⑫ ☐ CD や DVD の音楽や動画を、Web ページに公開したことがある
- ⑬ 改正著作権法が平成 22 年 1 月 1 日に施行され、著作権を侵害した配信だと知りながら、権利者に無断で音楽や映像をダウンロードすることは、個人的に楽しむ目的であっても違法となったことを知っていましたか。
- ⑭ 前問の法改正を知り(今回知ってことも含む)あなたの考えはどのように変わりましたか。
特に変化なく違法ダウンロードをする(している)・違法ダウンロードする回数を減らす(減らした)・一切ダウンロードしない(しなくなった)・もともと違法ダウンロードなどしたことがない

事前に経験度を測るためのアンケート

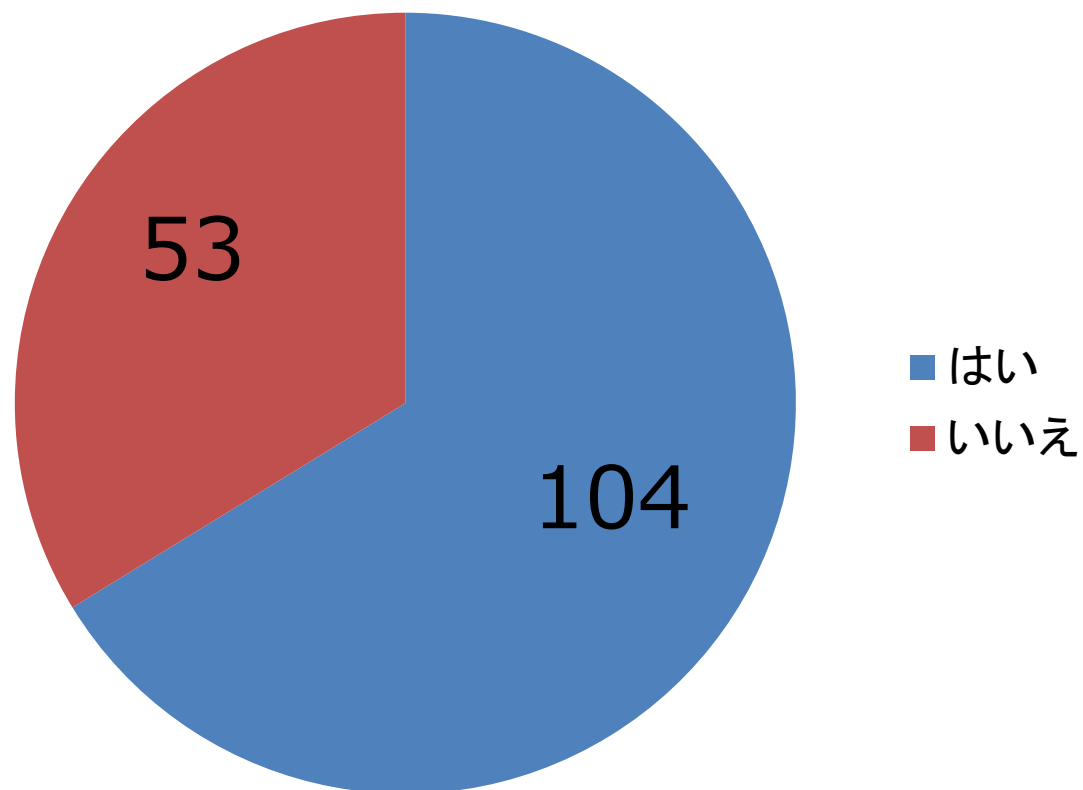
授業前アンケート 2

経験度を測るためのアンケート結果①～⑫

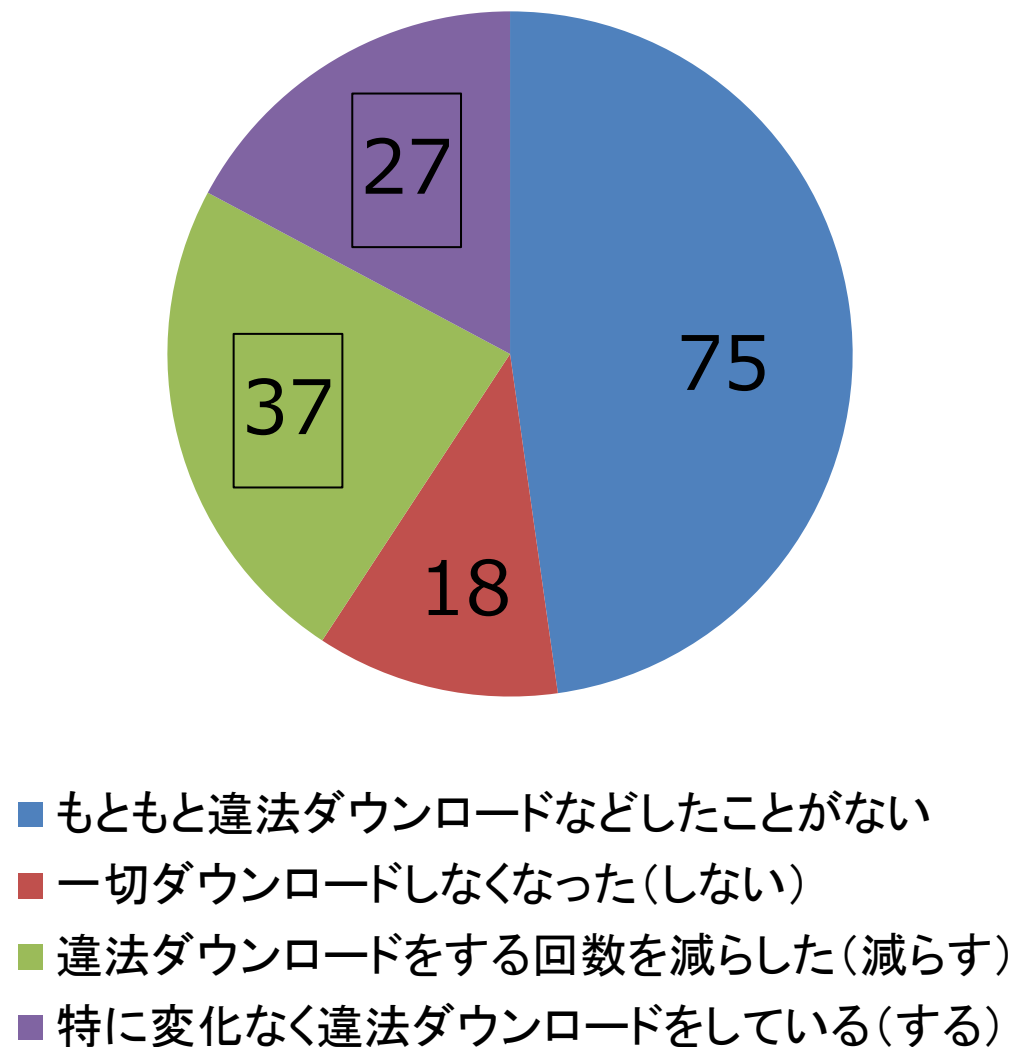


授業前アンケート 3

⑬改正著作権法が2010年に施行され、著作権を侵害した配信と知りながら、権利者に無断で音楽や映像をダウンロードすることは個人的に楽しむ目的であっても違法となったことを知っていましたか。



⑭前問の法改正を知り（今回知ってのことも含む）あなたの考えはどのように変わりましたか（変わりますか）。



授業後アンケート 1

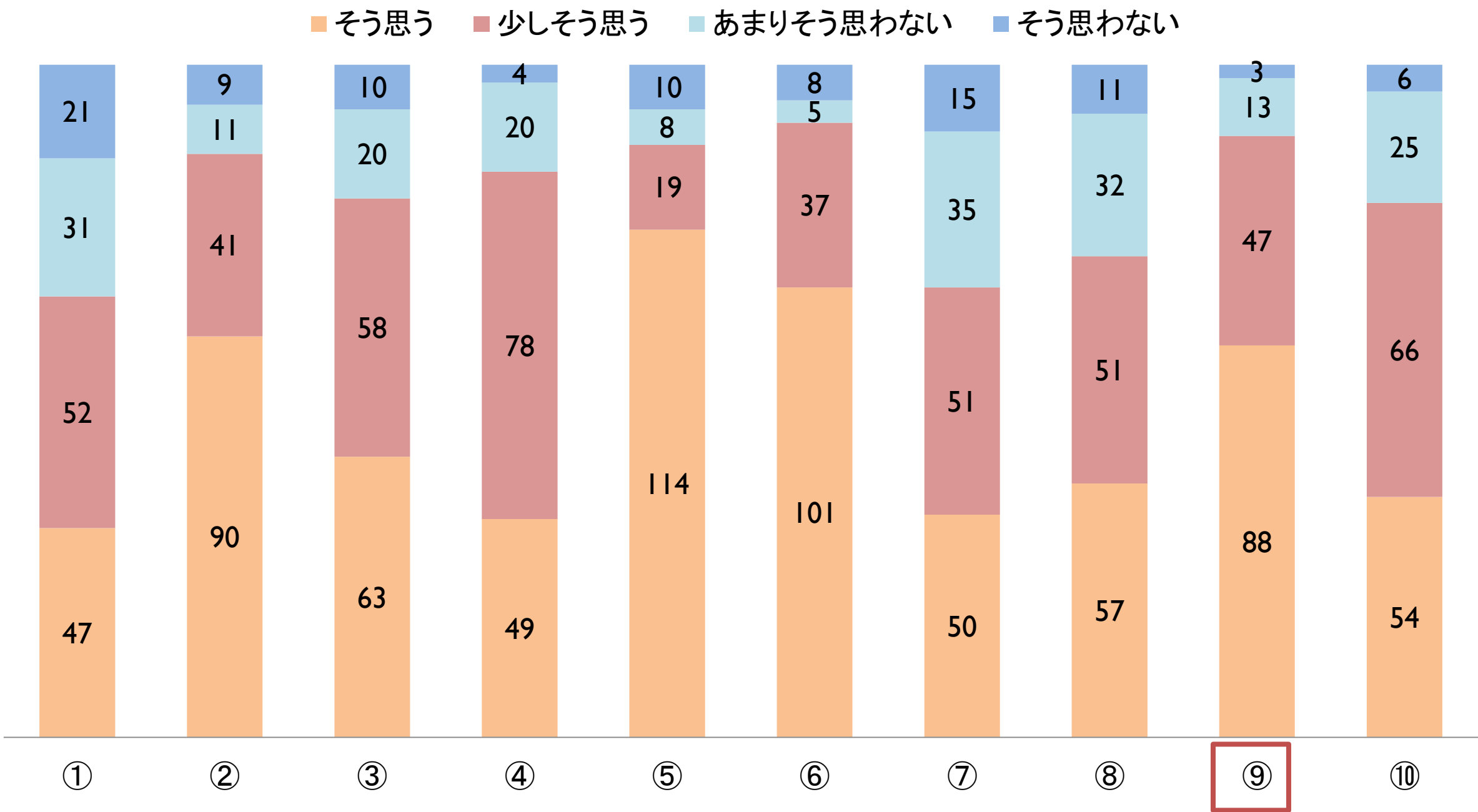
以下の各項目について、「そう思わない」「あまりそう思わない」「少しそう思う」「そう思う」で教えてください。

- ① () CD にある音楽をコピーするときは、自分で使うものかどうかなどを踏まえ、慎重に行おうと思う
- ② () コンサートやイベント会場では、禁止されている行為を確認した上で、慎重に行動しようと思う
- ③ () 他人が創作した著作物を自分のために使いたいときには、許可を得て使うことが必要だと思う
- ④ () 身の回りにある著作物について意識し、著作権を尊重したいと思う
- ⑤ () 財布やバッグ、映画の DVD 等は、偽ブランドや海賊版でなく正規のものを購入したいと思う
- ⑥ () 著作権に気をつけないと、自分も知らないうちに著作権違反をしてしまうかもしれないと思う
- ⑦ () Web ページにある文章や画像をコピーして自分のレポートなどに使用することは、慎重に行おうと思う
- ⑧ () デジカメや携帯のカメラで撮影した写真を印刷して配ったり、Web ページに掲載したりすることは、慎重に行おうと思う
- ⑨ () 他人のものと自分のものの区別をしっかりとつけなければならないと思う
- ⑩ () 改正された著作権（違法ダウンロードの禁止）を守ろうと思う

授業後の著作権に対する考え方

授業後アンケート 2

授業後の著作権に対する考え方



本時の振り返り 1

授業前

- 取り締まるべき
- 法が曖昧である

授業後

- 完全に取り締まるのは難しい
- 各々のモラルが大切である

結果

- 情報社会の一員としての考え
- 当事者としての意見を持った

生徒の変容

著作権に対する考え方の授業前アンケート(自由記入形式)では、侵害に対しては、取り締まるべきであり、法を明確にすることできちんと守ることができるというものが多く、法があいまいであることの指摘も多かった。

そして授業後の記述では、侵害は許されるものではないが、完全に取り締まるのは難しいし、それだけでは駄目だ、という記述、さらに各々がモラルをもつことが重要であるという記述が多くなった。

ただ法を守ればいい、という考えから情報社会の一員である自身についての考えを述べることができるようになっており、当事者としての意見をもつようになった生徒が多くなった。

形成的評価のアンケート 1

以下の括弧がある項目について、「そう思わない」「あまりそう思わない」「少しそう思う」「そう思う」で教えてください。

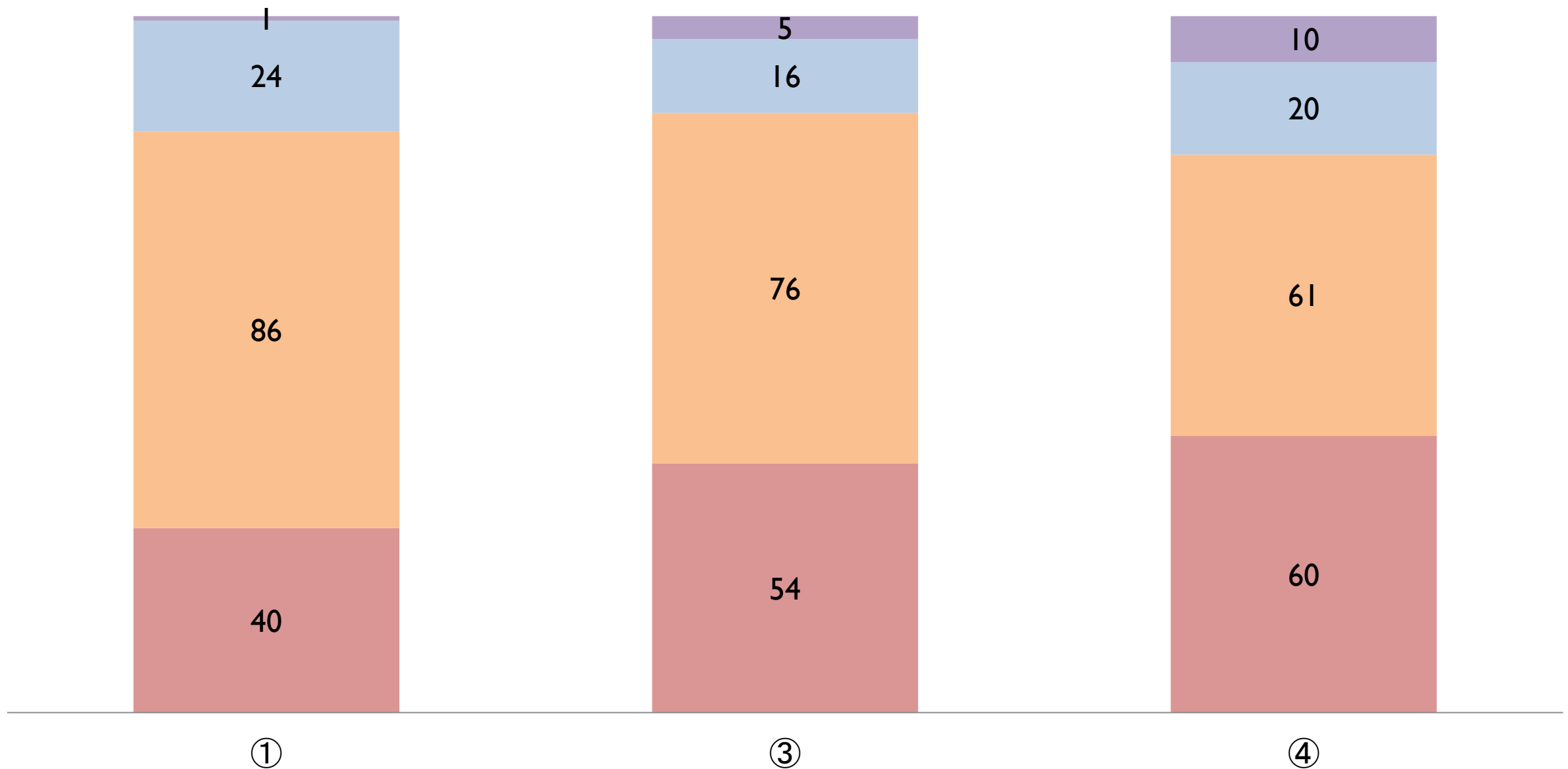
- ① () 自分の考えを「黒」、他の生徒の意見やその意見に対してあなたの考えたことを「青」、教員の説明とそれに対してあなたの考えたことを「その他の色」としたメモを取る実習を入れましたが、思考力や判断力が育まれる、またはそのきっかけとなると感じますか。
- ② 上記の活動についてあなたの感想を書いてください。
- ③ () 形成的評価 (A、B) を記し、さらにコメントを今回は記入しました。そのことであなたのやる気や考えの変化、さらにそのきっかけになりましたか。
- ④ () 形成的評価 (A、B) を記し、さらにコメントを今回は記入しました。そのことで、あなたの思考力や判断力が育まれる、またはそのきっかけとなると感じますか。
- ⑤ 上記の活動についてあなたの感想を書いてください。

形成的評価とその活動のアンケート

形成的評価のアンケート 2

形成的評価とその活動のアンケート

■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ そう思わない



本時の振り返り 2



形成的評価に対する生徒の反応

授業を実践することにより、著作権に対して守る気持ちは「学習活動の記録シート」より育まれたことがわかった。授業では、著作権は決まりだから守りなさいという指導よりも、著作権の存在意義や目的や焦点を当てたため、生徒の考え方に一層の変容がみられた。

形成的評価に対してアンケートを実施した。約8割の生徒からは肯定的な評価をしている。よいコメントを受けたから肯定的、指摘を受けたから否定的ということではなかった。色ペンを用いて自他の意見を書き分ける活動については、後で見返した際に自身の考えの変容が分かって良い、といった記述が多くみられた。

また、教員からコメントが記述されることで、自身の考えが深まる契機とすることができたという感想を記述した生徒が多数いた。

研究の成果 1

判断の場面を増やすとともに
思考の深まりを丁寧に記録することができた。

「知識・理解」として定着している著作権の目的を自身のできごとととらえ、自ら考え実践する必要性を考えさせることができた。

他の生徒の意見を聞き、その意見をどうするか判断の場面を増やすことは生徒の思考を広げ、さらに変容させていくことが確認させることができた。

自身がどのように思考・判断したかという過程を確認し振り返ることができた。

講義中心の授業からグループ活動中心の形態に自然な移行が期待ができ、他の生徒の意見を聞き自身の思考を変容させていく活動を生徒が望む姿勢が見えた。

研究の成果 2

形成的評価により，思考力・判断力・表現力の定着を自覚させることができた。

形成的評価を工夫することで，生徒の思考を深める支援にすることができた。

アンケートから，形成的評価を取り入れた教員の支援について肯定的な評価が多かった。

教員のコメントをヒントに自身の記述を読み返すことで，思考を深める契機とすることができた，というコメントが多くあった。

教員によるコメントからもう一度提出したいという要望が多くあった。関心を高めることも示されている。

研究の成果 3

成果 1, 2 より教員が思考力・判断力・表現力等を評価できた

生徒の思考や広がりといった変容を確認することができ、総括的評価の参考にできた。

学習活動の適切な評価から授業改善に生かすことができる。

今後の課題

教員のコメント

- 規準を設定すると思考の広がりや深まりを抑制し誘導してしまう
- 関心や意欲を削ぐ可能性がある

コメントの工夫

説得力のある意見

- 表現力が乏しいと説得力がなく思考が深められない
- 思考していても表現ができるとは限らない

表現の指導

参考文献

- ▶ 国立教育政策研究所教育課程研究センター (2011) 評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 (高等学校 共通教科「情報」) ～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて
- ▶ 文部科学省 (2014) 高等学校学習指導要領解説 情報編
- ▶ 梅田恭子, 江島徹郎, 野崎洪成 (2012) 高校生を対象とした著作権に関するジレンマ資料を活用した情報モラル授業の検討. 愛知教育大学教育創造開発機構紀要, vol.2, pp.157-163
- ▶ 永井克昇 (2012) 情報教育の充実に向けて 共通教科情報科における学習評価について. 学事出版. 中等教育資料
- ▶ 三宅元子 (2008) 高校生における著作権に関する行動・意識・知識の経時的変化. 日本教育工学会. 日本教育工学会論文誌, 32(1), pp.99-107
- ▶ 山森光陽 (2012) 思考力・判断力・表現力を育てる指導と評価. 図書文化. 指導と評価
- ▶ 東京都教育委員会 (2012) 教育研究員研究報告書情報

ご清聴ありがとうございました

モラルジレンマを活用した著作権教育の実践

A Practice of Copyright Education in Moral Dilemma

- ▶ 第7回全国高等学校情報教育研究大会 (埼玉大会) 2014年8月13日 (水)
- ▶ 東京都立江北高等学校 稲垣 俊介